

平成22年度 福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議 議事録

日時：平成22年11月5日（金）14:30～16:00

場所：西鉄イン福岡 2階大ホール

議事（1）座長選出

●事務局（家庭ごみ減量推進課）

委員改選に伴い、本会議の座長の選出を行うこととなるが、本会議設置要綱第5条第1項の規定により、座長は委員の中から互選により選出することになっている。引き受けることができる方、または、推薦はないか。

○委員

これまでのご経験と、幅広いご実績などから、花嶋委員を推薦する。

※委員一同の賛成により、花嶋委員を座長に選出

議事（2）福岡市の家庭ごみ減量・リサイクルの取組みについて （福岡市環境局家庭ごみ減量推進課）

【質疑・応答】

なし

議事（3）事例発表：「生ごみたい肥化」の普及・啓発について （西部環境サポーター倶楽部）

【質疑・応答】

○委員

個人的に段ボールコンポストをしている。発表では基材を「ピートモス」と「もみがらくん炭」から「ふくよかチップ」に変更したということであるが、もみがら等は入れずに「ふくよかチップ」だけなのか。

●発表者

段ボールコンポストの普及を早めるために、できるだけ安い基材を使うこととし、コストのかかる「もみがらくん炭」は使わず、「ふくよかチップ」のみを使っている。実験の結果、「もみがらくん炭」を使う場合とそれほど大きな差はない。

○ 委員

「ピートモス」と「もみがらくん炭」は半年ぐらいすると次を買う必要があり、費用がかかるのでどうしようかと思っていたが、毎回無料なら続けて行こうかと思う。

肥料としては野菜も花もとてもいいものができるので、早く普及して欲しいと思う。

● 発表者

できるだけコストを抑えるために、幸い現在は環境局から「ふくよかチップ」を無償で提供してもらっている。ただ、それを乾燥、小分け、袋詰めと色々な作業工程があるので若干コストがかかる。現在は、25リットル入りの1袋を300円で提供しているが、ゆくゆくはなんとか200円、100円と、コストを下げっていく工夫をしていきたい。そのため環境局からは引き続き無償提供してもらいたい。

○ 委員

講習会の教材費が年間214万円とのことであるが、そんなにかかるのか。

● 発表者

1箱で1,450円かかっている。中身の「ふくよかチップ」が300円、段ボール本体が200円、フタが100円、温度計が350円である。温度を測るのは微生物の動きを的確に把握するために必要である。それとテキストが500円で、全部で1,450円になる。

その内の500円は市の補助金を充てており、残りの950円については、私たちが古紙回収で汗水流して得た報奨金で補てんしている。したがって、会員の中には、「なぜ自分たちが汗をかいて古紙回収により得た報奨金で教材費をまかない、市民に供給しなければいけないのか」という疑問の声もあるが、その点を改善して、みんなが満足できごみ減量につながるように努力したいと考えている。現在、大幅なコストダウンを図る見通しがついてきている。

○ 委員

頑張ってください。

○ 委員

私は生ごみのたい肥化についてはまだまだ可能性があると思っており、開発を産学官でもっと進めてもらい、行政がもっと簡単なマニュアル、テキストなどを市民に配布して、誰もが簡単に取組めるようにできないかと希望している。

○ 座長

段ボールコンポストでできたたい肥は、具体的にどのように利用されているのか。

● 発表者

現在は、皆さんの畑や庭やプランターで使ってもらっているが、それでは量が出来すぎる。それを引き取って、私たちのグループで処理していこうと考えており、「出来たたい肥を新しい段ボールコンポストセットと交換する」、「たい肥を提供いただいた方には後日畑でできた野菜をお届けする」といったシステムを今作りつつある。

例えば団地やマンションなどのベランダでたい肥化しているが、使う場所が無いという方々に対応できるようなシステムを構築しつつある。

さらに、もうひとつその先には、食育にも手を広げたいと考えている。

議事（４）事例発表：徹底したごみ減量・再資源化への取組みについて （株式会社 博多大丸）

【質疑・応答】

○ 委員

リサイクル率が98%とはすばらしいと思い、とても感心した。

私達消費者の方の問題もあると思うが、これからは客に対して、もう少しマイバッグの推進をして欲しいと思う。例えば、惣菜を買えば三重包装ぐらいにしてくれて、ものすごくごみが出る。今後はデパートが客に対してどれくらいごみを出さないようにするかというところを、一デパートではなかなか難しいかとは思いますが、デパート同士で協議するなどして進めてもらってはと思う。

● 発表者

過剰包装の抑制については、客に自宅用か尋ねたり、お歳暮も簡易包装にするなど、推し進めていきたいと考えている。

マイバッグについてもまだまだ販売枚数が少ないと思うので、販売を進めていきたい。また、日本百貨店協会でもレジ袋については、市町村と有料化していく等の課題をあげて対策を話し合いながらやっていこうとしており、今後については、それが有料化になるのか、ポイントに還元にするのかということは、今はまだはっきり申し上げられない。

○ 委員

食品の残さをまとめてリサイクルにまわしているとのことであるが、持ち込みの状況はどうか。

● 発表者

生ごみ残さの引き取りを引取先が拒むとういことは無い。

ただ、博多大丸としては、残さをリサイクルにまわすというだけではなく、残さの発生を減らすということについて、今後きちんとやっていきたいと考えている。

○ 委員

先ほどの西部環境サポーター倶楽部の発表の中で、家庭でできたたい肥化が使い切れずに余っているとのことだったので、博多大丸のように、家庭の生ごみをまとめて肥料化・飼料化するというリサイクルの大きなルートにのせてもらえればいいのではないかなという感想をもったがどうか。

● 発表者

今のリサイクルのシステムに構造を変えることに大変苦勞して数年かかった。取引先の業者に引き取ってもらう金額の問題、また、社員にきちんとしたごみの仕分けができるのかという問題などが、一致した結果だと考えている。

○ 委員

事業系だけではなく家庭系の方も、このようなシステムにのせていくような事を考えたらどうかと思い、意見を申し上げた。

議事（5）その他

【意見】

○ 委員

一つ感想であるが、実は私共も誌面でエネルギーについて考える講座を実施した。主婦6人の方にご参加いただきいろいろ勉強したが、先ほど市の職員から説明があったように、関心とそこに自分が直接行動して関与するもののギャップを非常に感じた。その主婦の方々は、「何かしなくてはいけない。でも、地球環境のために私達にできることは何かしら？」と皆さん口をそろえて言うように、関心は持っているけど具体的にどうしたらいいのかわからない。

市や県がいろいろな冊子を出しているし、いろんな講座を実施しているが、普通の主婦の方のレベルではなかなかそこに到達してなくて、まだまだやり方がわからないとのことであった。実際にそれを体験するとわかるので、今日の発表者のように段ボールコンポストの切り口を変えて、花の講座にするなど、普通の方がもっと気軽に参加して、もっと気軽に生活の中に取り組める方法を発信してもらったら、家庭の家事を担っている方達、ごみの近くにいる方達が、実践できることがもっと増えていくのではないかと感じた。

それと、博多大丸など企業の皆さんがどういった取り組みをしているのかが、まだまだ企業間や地域の方々の中にも伝わっていないと思う。せっかく「福岡市環境行動賞」など、取り組みを発表した冊子があるので、その点をいかに広く市民レベルで発信し、その中で日常的に喚起をしていくというシステム作りが、もう少しこういった機会に皆さんのご意見を頂戴していきながらやっていけたらというのが今日の感想である。